

VIDEONER-BIZNET NEWS

ビデオナービズネット（日本映像製作者協会）とは個人規模で映像関係を業務としている事業者及びそのことに関わっている者の組織です。

公式WEB <http://www.videoner-biznet.com>

📷 3月定例会のご案内

「日頃の業務から」

日頃の業務を通じての話を起点として、それらに関する質問・疑問を積極的に出し合いたいと思います。つまり、より実践的なことにスポットを当てた質疑応答を行う予定です。

特に撮影現場ではさまざまなトラブルに見舞われると思います。そんな事例などをお

持ちよりの上、みんなで解決できたらと思いますので、みなさま奮ってご参加ください。

次回定例会は

日時 2019年3月18日(木) 19時~21時

場所 日暮里サニーホール 第3会議室

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5-50-5

ホテルラングウッド5階 03-3807-3211

JR・京成日暮里駅より徒歩5分

👥 2月定例会のご報告

「2019年総会」

2019年ビズネット定時総会が行われ、

「役員の変更に関する件」、「収支報告書の承認に関する件」、「特別会費制度に関する件」の3つの議案について、承認がされました。詳細につきましては、吉岡さんの議事録をご覧ください。



✍️ 会員コラム

高橋さん「西湘のビデオ屋稼業」

吉岡さん「よっしーのお手伝い日記」

佐藤さん「初めてのプロの現場」

が続きます！

(文責各筆者)

文責：脇田

定時総会議事録

平成31年2月14日 午後7時より、日暮里サニーホールにおいて、定時総会を開催した。

議決権のある会員総数	15名
出席会員数	6名
委任状	2通

以上のとおり会員の出席、および委任状があったので、副会長 近藤一明 は議長席につき、定時総会は適法に成立したので開会する旨を宣し、直ちに議事に入った。

第1号議案 役員の変更に関する件

議長は、役員全員が会則の規定に基づき、本定時総会終結をもって任期満了し退任することになるので、それらの改選の必要がある旨を述べ、立候補者は出なかったことから、議長がそれらの指名を行なった。議長は下記の者をそれぞれ指名し、これらの者につき、その可否を議場に諮ったところ、これを承認可決した。

会長、会計兼任	高橋 昌一
副会長、監査役兼任	近藤 一明
広報（HP 担当）	吉岡 伸次

なお、被選任者は即時就任を承諾した。

また、下記の者を役員推薦した。

広報（会報担当）	脇田 昇
----------	------

第2号議案 収支報告書の承認に関する件

議長は当期（平成30年1月1日から平成30年12月31日まで）に於ける当会の運営状況を報告し、下記書類を提出して、その承認を求めた。

1. 収支報告書

ついで、近藤一明は上記の書類につき、正確妥当であることを認めた旨を報告した。

総会は、別段の異議なく、これを承認可決した。

第3号議案 特別会費制度に関する件

下記のような事由が認められる会員については、特別に会費を減免する制度を設ける。

- ・遠地により定例会等への出席が困難な会員
- ・会員の家族等

総会は、別段の異議なく、これを承認可決した。

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、午後9時00分散散した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び出席役員がこれに記名押印する。

平成31年2月14日

ビデオナー・ビズネット（日本映像制作者協会） 定時総会

議長	近藤 一明
監査役	
出席役員	高橋 昌一
会計	
出席役員	吉岡 伸次

2月会報発行時にはとても会報原稿を書ける状況ではなかったが、ここ最近になってようやく峠を越えてきた。毎年、「もっと高効率を考えなければ」と考えだす時期だが、いつもなんだかうやむやにして毎度の後悔。

昨年暮れ、ある幼稚園さんの発表会。大ホールで動き回る園児対策で、今回は脇田さんに助っ人をお願いした。(その日はそこでの撮影を終えた後に、他所での仕込みもあるので朝早くから午後7:00ころまでほぼ休みなく続いた。お疲れ様でした。)

さて、脇田さんが、依頼した撮影のほかに「テスト的にもう一台カメラを回してもよいか」といつてきたので了承。そのカメラはパナソニックのDC-GH5S。一言でいうと、「スチルカメラを動画寄りにしてきたカメラ」のよう。テスト撮影した4K60Pの映像を借りてタイムラインに並べて正直驚いた。精細でノイズ感の少ない画質。AX100といい、AX1といい、それまで見た画とはまったく別モノ。4K60P映像の目的用途であるレイアウトで拡大してみたが「使える！」の印象。(主に万一の際の代替用ではあるが)。で、購入手続きをする。手元に来るまで少々時間を要したが何とか1月の撮影に間に合った。

スチルベースのカメラなので(取説はスチル撮影の方が記載が多い)、不慣れな自分には動画撮影までのアプローチが、ビデオカメラとはかなり違うので戸惑う。1月末、ホール発表会時にテスト撮影。シャッター60、ISO 3200、マニュアルアイリス、マニュアルフォーカスにて。撮影中は、ビデオカメラと違ってズームをいじるたびにフォーカスを確認する必要が生じるのでその対策ももたげてくる。ただ場所を取らない小さなボディはお気に入り。撮影後日、時間を見つけて取説をあらためて読み込む。 ???もあつたが新たな発見もあつた。

2月中旬、大ホールでの音楽発表会で2度目のテスト撮影。まずはモードダイヤルをクリエイティブ動画モードにする。ISOは前回暗すぎたので1600に変更。その他の設定は同じ。前回、カメラのモニターではフォーカス合わせが難しいと思い、5in.モニターをカメラにドッキング。それでも全体の大きさは気にならない。WBは任意の数値。今回はビデオカメラの数値と同じにしてみた。フォーカス合わせは、NX5Jでいうところの「ワンプッシュオート」のようなものがモニター画面にあり、ちょいちょいタッチする。(これには会員の佐藤さんのアドバイスがあつた。)多分これが奏功していたのだろうか後で見た映像にはピントの甘さを感じなかった。また、ISOを変更した効果か、露出具合も特に違和感はなかった。

撮影現場では一人で複数台のカメラを操作管理しなければならない現状。必要に応じて、チャッチャといじれなければならないが、GH5Sはその点、ストレスの少ないカメラのような気がする。今後も使用していくので、その都度のご報告が出てきましたら追記いたします。

それにしても花粉がすごい。

よっしーの休日(4) よっしーのお手伝い日記 番外編

アソシネット株式会社 吉岡

以前、ビズネット 20 周年の時に、会長やビズネット会員を集めて、トーク番組みたいな映像を作ったことがある。編集して Youtube にアップした。自分的には、まあまあな出来だと思ってて、また、こういう感じのことをやりたいと常々考えていた。

去年、ホールを使ったビズネットの勉強会で、せっかくの機会だし、ビデオで記録を撮って、編集した。そのままでも良かったのだが、考え付いたのが、20 周年の時みたいな形で、VTR について語り合うトーク番組という感じにするのはどうだろうか。なんか面白そうじゃない？

あの時には、ロケーションを探すのに苦慮していた。普通の貸会議室だと味気ないが、スタジオセットではお金がかかりすぎる。そこで思いついたのが、脇田さんのパソコン教室。

広さも丁度いい、背景、テーブルなど。ロケーションには最適だった。そこで、今回もお願いして、場所を借りることにした。けっこう、ノリノリで受けてもらえた感じだった。いつもありがとうございます。

参加者は、私、脇田さん(あっふるこあ)、高橋さん(ゆうばりビデオグラファー)、菅澤さん(デジタル工房こまち)、佐藤さん(有限会社 都市建築写真事務所)の 5 名。

2019 年 1 月 11 日 大船

機材を積んで、車で大船まで。12:30 頃着いた。自分は何回か脇田さんのパソコン教室に来たことがあるが、初めての人もいるので、13:00 JR 大船駅に迎えに行く。

今回、3 人でトークを行う設定：吉岡(MC)、高橋さん、菅澤さん
使用する機材だが、固定のカメラ 3 台：脇田さん、無線ピンマイク 3 セット→IC レコーダに接続
ガンマイク 1 台を予備の音声として、長めのケーブルでカメラのキャノン端子に付け、しゃべってる人に向けてもらう：佐藤さん

収録スタート。私の MC は、最初からグダグダだった(笑) こんなに出来ないものなのか！ってくらい。まあ、こういうのも、やるからこそ だと思ふことにしよう。やらなければ、ゼロだし。マイナスなら、マイナスということがわかった、と前向きに捉えよう。
しかし、他の皆さんのおかげで、なんとか収録は終わった。

後日談

収録の目的は DVD 作成のためだったのだが、この企画自体に何人かから反応があった。半ば、遊びではあるが、やはり みんなで実践するのは楽しいし、勉強になる。
以前、臨時で勉強会を開いた時期があったが、また、再開したいね。

以上

昨年、秋に行われた小田原市民会館でのビズネット講習会に参加できず、早くプロの現場を見たかった。この2月、同じ会館で高橋さんが撮影する幼稚園の音楽会リハーサルに密着させて頂いた。百聞は一見に如かず、見るもの全てが勉強になった。意識としては見学ではなく密着しようと思っていた。高橋さんが行く先々ホール内をびったりついて回った。ホールや関係者とのコミュニケーションはタテ糸とヨコ糸のように力みなくしなやかに交わっていた。人への配慮は同乗させて頂いた車の運転からも感じられた。帰りの電車の中で考えたが、撮影技術はもちろんだが、仕事の時だけでなく日常も謙虚さに注意を払いながら生きていくことが初めて大切だと思った。良しと思ったことでも固定観念や習慣でブレーキがかかる弱い自分がある。リハーサルが終わって機材を車に積んでいるとき、園の親子が歩み寄ってきた。小さな女の子が高橋さんにバレンタインのチョコレートを渡した。その光景を見て、今日のエンディングにふさわしい1シーンを見せて頂いたと思った。



写真はその時の二刀流で撮影する高橋会長